



研修会

報 会
全国文化財壁技術保存会
第 19 号

平成三十一年（二〇一九）年三月二〇日発行
編集 全国文化財壁技術保存会
発行 愛知県江南市力長町 大当寺二二八
事務局
TEL（〇五八七）五九一八〇〇〇

会長 安達保信



平成30年5月13日の総会におきまして、会長に就任致しました。何分にも非才の身ではありますが、皆様のお助けを得て努めるべく勉強致したく、励みたく思います。当会発足より20余年の実績があり、先達のご苦労に感謝申し上げます。そして常々御指導を賜ります、行政の先生方や会の指針についてご助言を

賜る本会関係の先生方にも、厚く御礼申し上げます。

さて、以前より提案されて参りました木造建造物技術の世界遺産登録が、文化庁様からも推進されており、関係各保存会も元気づけられている事と思われます。登録の上は、日本国民の多くに伝統技術の大切さや魅力について広く認識され、少しでも啓蒙活動に寄与されん事を願います。当会の一年を振り返りますと「技能者養成事業」として本年は基礎課程で8月と11月（前期・後期）に分けて行い、関係講師の先生や、実技指導の役員各位の御尽力で有意義に終了されました事、厚く御礼申し上げます。私は、受講生のレベルも徐々に向上しており、個人相互の情報交換も大いに役立っていると感じています。

他方、継続事項として左官材料及び工具の確保も大変重要で

あり、特に壁土採取業者が各地でやむなく廃業されており憂慮されます。これは資源の枯渇と云うより、土需要の大巾な減少による採算の悪化が最大の原因ではないかと推察されます。時代の

変化による建築様式の変革とあきらめず、我々が方策を講じる必要があります。しかし、

何分非力の身では思うにまかせず、行政にもお願いし工事量のアップをして頂きたく考えます。

近年、京都に文化庁々舎移転が決定され接触も多くなり、この事もお伝えしたく思います。会の将来として、各保存会様とも深く連携し、文化財の保存と活用についての協力と発展に協議される時かと考えます。また登録文化財の指定件数が増加し、明治・大正期の建物が多くあり、いわゆる洋風建築であり、装飾の蛇腹仕事や煉瓦積み、セメント塗、人造石洗い出し仕上げの

工法など、再勉強される種目が多くあり楽しみが増えます。会員の皆様方も若い従業員の方々を研修に多く出していただけるよう、よろしくお願い申し上げる次第です。

副会長 中嶋正雄



時下 皆様におかれましてはますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。

平素は、当壁保存会の活動にご理解ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

この度、第26期総会におきまして副会長に就任致しました中嶋正雄でございます。微力なが

ら全力で尽くす決意でありますので、会員の皆様、関係者の皆様のご支援を賜りたく心よりお願い申し上げます。

会が発足して今年で26年になりました。私は縁あつて発足当時より参加させていただいておりますが、当時はこの左官（日本壁）の後継者育成と技術伝承を行うべく、無我夢中で活動していたことを今でも鮮明に覚えております。平成14年に文部科学省の「選定保存技術保存団体」に選定していただいたこと、現在ユネスコ無形文化遺産への候補に選んでいただいたこと、誠に少しずつではございますが認知していただき、とても嬉しく思います。しかしながら、まだまだ会としては見直すべき点が多くあり、より多くの方々に協力頂きながら今後次の世代へ正しい技術と知識を継承していかなければなりません。

また毎年開催される文化庁主催「日本の技体験フェア」に今年も参加して、左官技術のPR・指導をしてまいりました。2日間で140名の方々に体験していただきましたが、その中で2、3名、道具の使い方、要領の良さ、覚えの早さ等、可能性を感じる方がいらつしやいました。ぜひ左官職人になつてもらいたいと思ふスカウトのようなことができたらどんなにいいかと思いました。また、改めて女性の手先の器用さに驚きました。人手不足といわれるこの業界で、外国人登用をする会社様も出てきました。ただ今一度、現場の生活設備等職場環境を見直すことによって、女性職人の進出に可能性を広げ、少しでも人手不足を解消できるよう努めて参りたい所存です。今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

第26期(平成30年度)総会

平成30年5月13日、京都市で第26期定期総会を開催しました。来賓等は、文化庁文化資源活用課(修理指導部門)の黒坂貴裕様、京都府教育庁指導部文化財保護課 建造物担当課長の鶴岡典慶様、保存会顧問 公益社団法人 全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事事務局長 後藤佐雅夫様、保存会顧問 上田耕三様にご出席を頂きました。

総会では、平成29年度事業報告及び収支報告、平成30年度事業計画案及び収支予算案の審議、役員改選では会長・副会長・新役員等の審議を行い、原案のとおり承認されました。

引き続き、選定保存技術左官(日本壁)伝承者養成技術研修会受講修了者への修了証の交付を行いました。



研修会受講修了証の交付



総会

左官(日本壁)伝承者養成技術研修会(基礎講座)

文化財壁技術の継承を図るため「左官(日本壁)伝承者養成技術研修会(基礎講座)」を開催しました。

前期・後期計12日間、二回に分けての研修会としています。

前期は、平成30年8月27日から9月1日の6日間行いました。

姫路市の日本城郭研究センターを会場に、姫路城についての講義や城の修理現場見学、三和土、日本の壁、左官の仕様、文化財についての講義を行いました。引き続き、三木市にある鋳製造所、金物神社、金物資料館、神戸市にある竹中大工道具館を見学しました。さらに京都市に会場を移し、文化財保存修理における左官工事動向の講義、元離宮二条城の修理現場見学、竹についての講義を行いました。

最後は、大津市に会場を移し、土間・三和土、版築工事の実技研修を行い、前期研修を終えました。

後期は、平成30年11月5日から11月10日の6日間行いました。

京都市において、文化庁の黒坂貴裕様に文化財概論、岡山理科大学教授の江面嗣人様に講義をしていただきました。引き続き、尾崎色土製造所、中内建材店にて土の見学をしました。さらに大津市に会場を移し、滋賀の文化財建造物について、石工の穴太衆について講義をしていただきました。さらに、東近江市五個荘金堂伝統の町並み、安土城跡、近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区の見学をしました。最後に、津田左官工業所を会場に、木舞掻きの実技を行い、後期研修を終えました。

研修生の感想

■石黒 優

私は今年の研修を通して、今まで知らなかった土壁に関する知識を得られたと同時に、今まで向き合ってきた「文化財」というものがどういう物であるのか、これから先どのような心構えで向き合っていかなければいけないのかを、改めて再確認することができました。それと同時に、研修を受けている私達が、役員の方々といった先の世代の職人達から、脈絡と受け継がれてきた古来の伝統的な技法を学び、私達よりも若いこれから先の世代に引き継いでいけるようにしていかなければいけないという、責任感や使命感を強く感じました。しかしその反面、講義や現場見学などを通して、土壁を塗れる左官職人だけでなく、鋳の製造屋さんや、木舞の竹、

京土、角叉といった希少になりつつある材料を取り扱う建材屋さんといった、私達の仕事においてなくてはならない業者さん達もまた、同じように後継者不足で、苦境に立たされている現状にあることに強い不安を感じました。これから先もこうした業者さん達が、私達と共に在られる事を、強く願わずにはいられませんでした。

(中島左官(株))

■尾上 祥太

前期・後期の研修では、講義・見学・実技と色々な事を学びました。前期は、姫路・京都・滋賀と行き研修をさせていただきました。姫路では姫路城の歴史や修理などの話をさせていただき、京都ではさまざまな文化財の話をしていただき、滋賀では土間の三和土をしました。すべてとても勉強になり、良い経験ができて嬉しく思っています。後期で

は、京都と滋賀へ行き、研修をさせていただきました。京都では講義、滋賀では講義・見学・実技をしました。特に印象に残ったことは、木舞掻きの実技です。私にとつて一から木舞を掻くのは初めてで、分からないことばかりでした。講師の先生や他の研修生の方々に教えていただき、木舞を掻くことがみんなで出来ました。これからの仕事に生かせるよい経験ができ、嬉しく思っています。一から十まで教えていただいた講師の先生方には、とても感謝しています。ありがとうございます。良い研修生の仲間にも恵まれ、本当に充実した研修の時間を過ごすことができました。最後に、お世話してくださいました講師の先生方やスタッフの皆様にはとても感謝しています。ありがとうございました。

(株)山脇組

■高橋 勇

前期は、版築・三和土をやりました。三和土は現場でやっていたこともあり作業的には問題ありませんでしたが、土・砂・ビリ・石灰の配合が少し違って、とても勉強になりました。版築は初めての経験で大変でしたが、これからのためによい経験になったと思います。後期は、木舞掻きをしました。男結びが難しく、覚えるまで時間がかかりましたが、辛抱強く指導して頂き、感謝しております。そして、良い仲間ができたことを嬉しく思います。

(株)あじま左官工芸

■塚田 哲平

研修会に参加させていただき、本当にありがとうございました。普段目になっているものから、なかなかお目にかかれないようなものまで、たくさんの勉強ができて大変嬉しく思います。今回の

「体験」したことを「経験」にして、今後の仕事に生かせられればと思います。全国から集まった研修生の皆様とも仲良くさせていただき、充実した研修であったと心から思います。会長をはじめ講師の皆様、関係者の皆様、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

(片田儀斎営業所)

■根本 英治

前期の研修では、講義で教えていただいた先生たちの話を聞いていて、一人一人文化財・左官に対する思いが強く、知識が豊富で自分が何も知らない職人だなと思いました。土間三和土作業の研修では、自分が行ってきた仕事の手順が少し違って、新たな知識を得ることが出来ました。会社にとっても重要な事です。後期の研修では、京都・滋賀の古い街並みを見学しましたが、東京には無い街並みを見

ることができ、大変目の保養が出来たと思います。作業研修では、木舞掻きを教わり縄の結び方を研修生みんなで四苦八苦しながら結びました。簡単なようで難しい男結びを覚えたのですが、次にやる時には出来るか心配です。最初の方は先生達も結び方どうだったつくと、声が上がっていたと思います。前期・後期ともに自分にとって左官に対する思いが大変変わったと思います。この気持ちを会社の人達に伝えたいと思います。

(吉村興業(株))

■原 翔一

今回の研修に参加させていただき、とてもいい経験をさせてもらいました。講義では色々な講師の方々にお話しして頂き、とても勉強になりました。例えば文化財についても今現在、文化財に携わる左官の仕事が年間にどれだけあって、文化財に携

わる仕事をできることがどれだけ貴重で大事なのかを教えてもらいました。これからもし文化財の仕事に関わることがあれば、精進して仕事をしたいこうと思いました。そして実技の方では、左官の伝統技術である三和土・版築・木舞掻きの作業を教えてくださいました。今まで仕事でも年にあるかないかの仕事であったので、とても新鮮でいい経験をさせてもらいました。三和土・版築共に何回か施工したことがあったのですが、改めて講師の方々に教えてもらい、新たな発見などがありました。木舞掻きはほとんど現場で施工したことがなかったので、竹の割り方から縄の結び方まで、初めての経験ばかりだったので、とても楽しく学ばせて頂きました。前期・後期の研修に参加させて頂き、ありがとうございました。

(原左官工藝)

■原田 正志

この度は、研修会に参加させて頂きありがとうございました。普段の仕事についてより深く理解し、技術者としてもステップアップ出来た大変有意義な時間でした。前期研修ではまず文化財についての講義がありました。文化財建造物が全国でいくつあり、どのような位置づけにあるのか。また姫路城はどのような計画で修復させているのか。普段では考えられない大きな視点から見る事ができた事は、歴史的、文化的視野を広げることの大切さを感じました。また江面先生の講義で、社会における文化財の意義、選定保存技術の役割についての話は、一職人として、とても考えさせられるものでした。姫路城の現場見学では、普段見る事の出来ない作業工程を見る事ができ、とても勉強になりました。実技講習とし

て三和土と版築をやらせていただきました。何度か仕事では施工していたのですが、細かい注意点や材料あんばい、打ち継ぎ

の仕方、等々勉強になる事ばかりでした。後期研修では、文化財についての講義と滋賀県の文化財についての講義がありました。あまり滋賀県の文化財について詳しく知らなかったのですが、国指定の文化財が全国3位という事で、中世の建造物が数多く現存していることを知りました。石積の穴太衆についても今回初めて聞き、こんな凄い集団がいたのだと驚きました。実技講習では、小舞掻きをさせていただきました。男結びや片大和掻き、隅縄等いろんな方法があり、覚えるのに必死でした。竹の扱い方、道具の使い方、3日間では覚えきれないほど内容が充実した実技講習でした。お世話していただきました役員の

方々、講師の先生、事務局のスタッフの皆様に感謝申し上げます。今回学んだ事を今後の仕事に活かしていきたいと思います。

(原田左官工業所)

■光増 健二

前期研修では、工事現場として姫路城・二条城にて現場見学、そして工事の概要、建物についての説明を受け、材料・道具の見識を深めるため竹中道具館、鍔製造現場、洛西竹林公園を見学しました。竹の種類の多さ、実際に下地として竹が使われている建物を見学して、現在の日本ではあまり竹が使われなくなったことを大変残念に思いました。講義では、三和土の材料と工法、日本の壁、左官の仕様、選定保存技術の役割について、文化財修理において左官工事の動向、竹の特性とその利活用を受講しました。実技では、土間・三和土、版築工事を行いました。

講義を受けたことで、理屈を知ったうえで作業できて大変身に付きました。後期研修では、国の重要伝統的建造物群保存地区の東近江市五個荘金堂伝統的町並み・近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区、安土城跡の見学に行きました。講義では、文化財概論、文化財建造物の修理について、滋賀の文化財建造物について、穴太衆について受講しました。実技では、竹の加工から真壁、蔵、茶室などの薄い壁の木舞掻きを行いました。それぞれの下地のやり方は多数あり、その場にあったものを選ぶように、なるべく多くのやり方を覚えていきたいと思えます。講師の方々には貴重な時間を頂き、有難うございました。

(光増左官)



講義



前期 講義



姫路城修理現場見学



竹の見学



鰻製造所見学



鰻製造所見学



版築の実技



二条城見学



版築の実技



版築の実技



前期 研修生と講師



版築



講義



後期 講義



安土城跡の見学



土取り場の見学



竹木舞 実技



五個荘町並み 見学



竹木舞 実技



竹木舞 実技



竹木舞 実技



竹木舞 実技



道具の制作



竹木舞 実技



後期 研修会



道具の制作

姫路城漆喰塗り体験会

保存会と姫路市の共催事業として、姫路城に塗っている漆喰の体験会を開催しました。

平成30年11月25日、姫路城三の丸広場において、平壁漆喰塗りと屋根目地漆喰塗りを、保存会会員の指導により、希望者に体験をしていただきました。また漆喰の説明と共に、道具や材料見本の展示も行いました。



日本の技 体験フェア

文化庁主催の「日本の技体験フェア」が、平成30年10月27日と28日、静岡県熱海市の南熱海マリンホールで開催されました。本会は、活動状況のパネルや左官材料・道具などの展示を行うと共に、他の保存団体と協同して「壁掛けづくり」の体験会を行いました。



編集だより

会報の発行にあたり、原稿をお寄せいただきました皆様方に御礼申し上げます。

佐藤会長が退任されましたことを機に、安達副会長が新会長に就任され、中嶋幹事が副会長に就任された節目の号となりました。新会長、新副会長からは、思いのこもったあいさつを頂きました。また研修生の皆様からは、研修会の感想を寄せていただきました。

事務局の吉田様には、原稿収集・校正等ご尽力を頂きました。改めて御礼申し上げます。

(編集 保存会顧問 上田耕三、事務局 中嶋正雄)

保存会ホームページアドレス
Kabehozonkai.sakura.ne.jp
事務局 Eメール
ichii@centerland.co.jp

選定保存技術左官（日本壁） 伝承者養成技術研修会受講修了者名簿

	番号	氏 名	所属事業所(交付当時)	生 年	修了証交付日
第1期生	1	浅 原 一 郎	し っ く い 浅 原	昭和48年	平成17年4月1日
	2	安 達 明 宏	(有) 安 達 左 官 店	昭和39年	//
	3	北 村 久 彦	(有)津田左官工業所	昭和50年	//
	5	柴 田 正 樹	(株) 山 脇 組	昭和50年	//
	6	中 島 英 貴	中 島 左 官 (株)	昭和52年	//
	7	矢 野 孝太郎	し っ く い 浅 原	昭和48年	//
第2期生	8	勝 木 巖	左 官 業 佐 藤	昭和37年	平成18年4月1日
	9	清 水 達 朗	(有) 田 代 千 治 店	昭和49年	//
	10	廣 田 直 人	し っ く い 浅 原	昭和44年	//
	11	山 脇 一 夫	(株) 山 脇 組	昭和55年	//
	12	伊佐次 卓 也	中 島 左 官 (株)	昭和59年	//
	13	高 屋 忠 光	(有) 田 代 千 治 店	昭和48年	//
	14	香 取 寛 隆	(有) 安 達 左 官 店	昭和51年	//
第3期生	15	本 田 俊 之	本 田 左 官 工 業 所	昭和56年	平成21年4月1日
	16	石 田 均	石 田 左 官 工 業	昭和33年	//
	17	大 森 祐 郎	(有) 田 代 千 治 店	昭和51年	//
	18	塩 畑 明 浩	(株) 山 脇 組	昭和62年	//
	19	田 中 昭 義	左 官 業 佐 藤	昭和48年	//
第4期生	20	水 野 秀 紀	中 島 左 官 (株)	昭和52年	平成22年4月1日
	21	吉 川 司	(株) 山 脇 組	昭和48年	//
	22	大 石 晃 司	左 官 業 佐 藤	昭和53年	//
	23	及 川 敏	(株)あじま左官工芸	昭和39年	//
	24	小 迫 傳	小 迫 左 官	昭和22年	//
	25	山 本 登	小 迫 左 官	昭和35年	//
	26	志 村 まい子	中 島 左 官 (株)	昭和58年	//
第5期生	27	荒 木 孝 行	(株)あじま左官工芸	昭和48年	平成25年4月1日
	28	永 井 宏 和	(株) 山 脇 組	昭和55年	//
	29	淵 田 桂 太	中 島 左 官 (株)	昭和52年	//
	30	本 田 英 雅	佐 藤 左 官 工 業 所	昭和45年	//
	31	御 園 拓 馬	本 田 左 官 工 業 所	昭和60年	//
第6期生	32	足 立 純	(株) 足 立 組	昭和47年	平成26年4月1日
	33	笹 原 剛	(株)あじま左官工芸	昭和54年	//
	34	中 田 一 真	(株) イ ス ル ギ	昭和59年	//
	35	野 村 智 広	佐 藤 左 官 工 業 所	昭和57年	//
	36	細 江 洋 平	中 島 左 官 (株)	昭和57年	//

	番号	氏 名	所属事業所(交付当時)	生 年	修了証交付日
第7期生	37	今 成 辰 夫	吉 村 興 業 (株)	昭和51年	平成29年4月1日
	38	太 田 勝 之	太 田 左 官	昭和47年	//
	39	大 田 雄 介	(株) 山 脇 組	昭和63年	//
	40	加 藤 正 幸	しゃかん かとう屋	昭和47年	//
	41	木 谷 直 充	(株) しっくい浅原	昭和62年	//
	42	永 井 貴 晃	(株) イ ス ル ギ	昭和61年	//
	43	原 慶 介	原 左 官 工 藝	昭和53年	//
	44	森 田 真 伍	中 島 左 官 (株)	昭和61年	//
第8期生	45	上 床 匡 史	中 島 左 官 (株)	平成 1年	平成30年4月1日
	46	小 島 徹 也	(有)津田左官工業所	昭和63年	//
	47	竹 内 一 司	(株) 山 脇 組	昭和44年	//
	48	深 井 浩 昭	吉 村 興 業 (株)	昭和44年	//
	49	藤 本 健一郎	原 左 官 工 藝	昭和42年	//
	50	丸 橋 優 樹	(株) しっくい浅原	昭和58年	//

選定保存技術左官(日本壁) 伝承者養成技術研修会 中級研修受講修了者名簿

	番号	氏 名	所属事業所(交付当時)	生 年	修了証交付日
第1期生	1	浅 原 一 郎	(株) しっくい浅原	昭和48年	平成25年4月1日
	2	北 村 久 彦	(有)津田左官工業所	昭和50年	//
	3	杉 坂 健	中 島 左 官 (株)	昭和38年	//
	4	田 中 昭 義	(有)京壁 井筒屋佐藤	昭和51年	//
	5	矢 野 孝太郎	(株) しっくい浅原	昭和48年	//
第2期生	6	安 達 明 宏	(有) 安 達 左 官 店	昭和39年	平成27年4月1日
	7	榎 本 英 樹	木 津 工 業 所	昭和45年	//
	8	及 川 敏	(株)あじま左官工芸	昭和39年	//
	9	大 石 晃 司	(有)京壁 井筒屋佐藤	昭和53年	//
	10	小 林 常 司	左 司	昭和43年	//
	11	佐 伯 愛 子	木 津 工 業 所	昭和52年	//
	12	志 村 まい子	しゃかん かとう屋	昭和58年	//
	13	長 谷 清 高	(株)あじま左官工芸	昭和47年	//
第3期生	14	笹 原 剛	(株)あじま左官工芸	昭和54年	平成29年4月1日
	15	清 水 達 朗	(有) 田 代 千 治 店	昭和49年	//
	16	今 成 辰 夫	吉 村 興 業 (株)	昭和51年	平成31年4月1日
	17	太 田 勝 之	太 田 左 官	昭和47年	//
	18	木 谷 直 充	(株) しっくい浅原	昭和62年	//
	19	原 慶 介	原 左 官 工 藝	昭和53年	//

会 員 名 簿

	会 員 名	住 所	事業所名等	左官関係所属団体
正 会 員	佐 藤 治 男	京都市左京区下鴨南茶ノ木町23-4	左 官 業 佐 藤	
	安 達 保 信	京都市下京区花屋町通り間の町西入る天神町411-2	(有) 安 達 左 官 店	京都左官協同組合
	中 嶋 正 雄	愛知県江南市力長町大当寺128	中 島 左 官 (株)	愛知県左官業協同組合
	田 代 益 市	京都市下京区猪熊通り塩小路下る上夷町165	(有) 田 代 千 治 店	京都左官協同組合
	石 田 均	香川県さぬき市大川町富田中2147	石 田 左 官 工 業	
	小 林 錦四郎	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2132-17	小 林 左 官 店	
	津 田 弘 道	滋賀県大津市下阪本1丁目20-22	(有)津田左官工業所	滋賀県左官工業組合
	山 脇 一 夫	兵庫県姫路市飯田1-24	(株) 山 脇 組	日本左官業組合連合会 兵庫県左官工業協同組合 播磨左官組合
	浅 原 雄 三	京都市山科区大宅沢町185	(株) し っ く い 浅 原	京都左官協同組合 日本漆喰協会
	片 田 儀 斎	京都市上京区中立売通小川西入ル三丁目440-5	片 田 儀 斎 営 業 所	京都左官協同組合
	本 田 俊 之	大阪府寝屋川市高柳2丁目43-13	本 田 左 官 工 業 所	
	松 本 勉	高知県安芸市井ノ口乙1202-3	(有) 左 官 松 本 組	日本左官業組合連合会
	阿 嶋 一 浩	東京都葛飾区青戸8丁目19-11	(株) あじま左官工芸	日本左官業組合連合会 日本漆喰協会
	小 迫 傳	鹿児島県出水郡長島町蔵之元3246の1	小 迫 左 官	
	小 林 常 司	京都市中京区東洞院蛸薬師下る元竹田町639-11	左 司	京都左官協同組合
準 会 員	加 藤 正 幸	三重県伊賀市東高倉2380-11	しゃかん かとう屋	日本左官業組合連合会
	足 立 三喜男	兵庫県三木市緑が丘町東1-3-4	(株) 足 立 組	兵庫県左官工業協同組合
	石 動 信 明	石川県金沢市神田1丁目31番1号	(株) イ ス ル ギ	日本左官業組合連合会 大阪府左官工業組合 石川県左官業組合連合会
	桑 路 丸 幸	兵庫県神崎郡市川町沢115-2	桑 路 建 塗 (株)	日本左官業組合連合会
	木 津 恵 雄	京都市東山区古門通り大和大路東入る二丁目三吉町344	木 津 工 業 所	京都左官協同組合
	太 田 勝 之	香川県三豊市豊中町笠田笠岡3156-3	太 田 左 官	日本左官業組合連合会
	原 健 一	和歌山県和歌山市湊御殿2丁目6	原 左 官 工 藝	和歌山県左官技能士会
	吉 村 誠	東京都中野区上鷲宮4丁目10番6号	吉 村 興 業 (株)	日本左官業組合連合会
	原 田 正 一	山形県山形市大字中野423-1	原 田 左 官 工 業 所	山形県左官工業組合 山形市左官業組合
	川 越 一 弘	熊本県熊本市東区戸島町920番地6	(株) カ ワ ゴ 工	熊本県左官協同組合
賛 助 会 員	山 本 登	大阪府河内長野市千代田台町17-21	ヤ マ モ ト 左 官	
	宮 谷 邦 夫	兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘35番地の69	宮 谷 製 作 所	兵庫県左官工業協同組合
	村 檜 太 郎	栃木県佐野市宮下町1番10号	村 檜 石 灰 工 業 (株)	
	北 野 一 成	大阪府堺市中区深井北町104-2	(株) 北 正 商 店	
	尾 崎 良 弘	京都市伏見区深草大亀谷西久宝寺町7	尾 崎 色 土 製 造 所	
	鳥 越 宣 宏	大分県津久見市徳浦2052-5	(株) 丸 京 石 灰	日本漆喰協会